



## PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

### 関東予選1 扶桑CC(茨城県)

## 予選大会結果

#### <PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 関東予選1>

- ◇2015年3月27日(金) 天候:晴れ
- ◇茨城・扶桑CC(15-17歳男子6955ヤード、パー72ほかカテゴリー別)
- ◇出場105人

#### <関東予選① 概況>

13-14歳の部男子で、田中章太郎(茨城・取手第一中1年)がイーブンパー72と、この予選のベストスコアをマークして、1位で決勝大会(5月5~7日、岐阜・花の木GC)に進出した。各選手が速くて硬いグリーンに苦しむ中、1、2番連続バーディーなどバーディーを4つ奪った。昨年関東予選(11-12歳の部)トップ通過も世界ジュニア出場を逃した悔しさをバネに、再挑戦する。15-17歳の部男子では、小林周平(福島・守山中3年)が5オーバー77ながら1位通過。79で3人が並んだが、カウントバックで五十嵐瑠亜(東京・田無第一中3年)、恩田拓哉(東京・日出高2年)が2、3位で決勝大会に進んだ。同女子は中川梨華(千葉・千葉学芸高1年)が3オーバー75のトップで予選を通過した。

#### <関東予選① 予選結果>

決勝大会進出者は以下の通り。\*敬称略

##### ▽15-17歳男子

- 【1位】小林周平(福島・守山中3年) = 77
- 【2位】五十嵐瑠亜(東京・田無第一中3年) = 79
- 【3位】恩田拓哉(東京・日出高2年) = 79

##### ▽同女子

- 【1位】中川梨華(千葉・千葉学芸高1年) = 75
- 【2位】木村朱夢(埼玉・埼玉栄中2年) = 77
- 【3位】今 綾奈(埼玉・埼玉平成高1年) = 77

##### ▽13-14歳男子

- 【1位】田中章太郎(茨城・取手第一中1年) = 72
- 【2位】鈴木晃祐(千葉・野田北部中2年) = 75
- 【3位】佐々木愁也(東京・瀬田中2年) = 86

##### ▽同女子

- 【1位】鴻上みらい(愛媛・新居浜南中2年) = 78
- 【2位】今井萌絵(茨城・茨城中1年) = 79
- 【3位】小林千夏(福島・守山中2年) = 83

▽11 - 12歳男子

【1位】戸崎拓海（東京・調布第三小5年） = 78

【2位】亥飼 台（茨城・滑川小6年） = 82

【3位】高橋幸生（埼玉・朝霞第七小5年） = 85

▽同女子

【1位】榎本杏果（東京・余丁町小5年） = 78

【2位】新谷芽々（神奈川・花水小5年） = 83

【3位】二宮佳凜（群馬・笠懸北小6年） = 84

▽9 - 10歳男子

【1位】市村龍我（長野・軽井沢中部小3年） = 84

▽同女子

【1位】茶木詩央（東京・稲城第四小3年） = 90

▽7 - 8歳男子

【1位】小林麟太郎（千葉・日の出小1年） = 80

▽同女子

【1位】安西歩美（群馬・大利根小2年） = 82

【2位】鈴木能々子（東京・五色桜小2年） = 82

（注）同スコアの順位は18番からのカウントバックによる

<関東予選① ハイライト1>

◇13 - 14歳の部男子 ◇茨城・扶桑CC（6955ヤード、パー72）

田中章太郎（茨城・取手第一中1年）が、昨年の雪辱を期して1位で決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）に進んだ。15 - 17歳の部と同じティーからイーブンパー72の好スコアをマークした。「前半、パットが入ってくれた」と、1番パー5で2オン、2番で「同伴競技者のマークに当たって入った」と5メートルを決める連続バーディースタートで4バーディー。後半はパットが思うようにいかなかったが、こらえた。昨年の関東予選では11 - 12歳の部を制して決勝大会に進んだが、2打差3位に終わって上位2人の世界ジュニア代表に入れなかった。その後は「2メートルは50球中40球以上入れる。1メートルは100球連続入れる」とパットの練習を重点的に行って「かなり集中力がついたと思います」という。「去年は悔しかったので、今年絶対勝って世界ジュニアに行きたい」と力を込めて話した。

<関東予選① ハイライト2>

◇15 - 17歳の部男子 ◇茨城・扶桑CC（6955ヤード、パー72）

小林周平（福島・守山中3年）が5オーバー77と苦しみながらも、他の選手のスコアも伸びず、トップで決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）に進出した。「前半1オーバーで回ったので、後半行けるかなと思ったら、力が入っちゃって、自分で崩れてしまいました」と反省。練習ラウンドをしなかったため、初めて回るコースを徐々に狭く感じてきたという。小学生時代から予選に挑戦し、決勝大会は一昨年に続いて2度目。「世界ジュニアに行って世界で自分の力を試して、どこまで通じるか知りたいので、ずっと出たいと思っています」という。下半身強化のため、2時間の練習後、帰宅途中で車から降りて「走らないと家に帰れないようにした」と、毎日5キロのランニングを欠かさない。「アプローチとパターは得意なので、ショットの精度を上げて臨みたい」と、意欲を見せていた。

<関東予選① ハイライト3>

◇15 - 17歳の部女子 ◇3月27日 ◇茨城・扶桑CC（6223ヤード、パー72）

中川梨華（千葉・千葉学芸高1年）がショット不調ながらも、3オーバー75で回って、決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）にトップ通過した。「一緒に回った選手のスタンスが広くて、それを見ちゃうと飛ばそうと意識してしまっ。リズムが速くなった。よく、人につられちゃうんです」と苦笑い。バーディー1つに終わったが、15番では奥のカラーから6メートルを直接入れ

た。「チャンスもあったけど取れなかったのが残念」と振り返った。昨年は日本女子アマに出場し、ベスト32に残った。「初めてマッチプレーをして、OKの仕方が分からず、にらまれてしまった」と1回戦敗退だったが、大きな経験をした。元々飛ばすタイプではなく（ドライバー飛距離230ヤード）、ショートゲームでスコアを拾っていくタイプだという。「今年高校2年なので、いろいろな試合で成績を出したい。海外に出たことがないので行ってみたい」と、意気込んでいた。



写真：左／田中章太郎（13—14歳の部男子）、中央／小林周平（15—17歳の部男子）、  
右／中川梨華（15—17歳の部女子） 写真クレジット：© I J G A 2 0 1 5